

トマス・フッド

13 メアリの亡霊

1

それは真夜中のこと

若者ウィリアムが眠ろうとすると
メアリの亡霊がそっと入って来て
ベッドの側に立ったのである

2

ああ 愛するウィリアム ああ ウィリアム 5
もうわたしの永遠とわの眠りは無くなったの
ああ わたしの永遠とわの安らぎは
粉々にされてしまったの

3

今までの苦しみは何もかも
最後の瞬間に消えるかと思っていたわ 10
でも 細長いお棺に入っても
そこに長く居ることはなかったの

4

死体泥棒らがやって来て
わたしをひったくって行ったの
ああいう連中は 15
死体と見たら放ってはおかないわ

5

丁寧に大切に埋葬されてると
あなたは思ったかも知れないけれど
でも メアリボーン墓地のお墓から
あなたのメアリは盗まれたのよ 20

6

いつもあなたと腕組みしていたわたしの腕は
 ヴァイス博士のもとに届けられ
 わたしの両脚は ガイズ病院を
 せっせと歩きまわっているわ

7

結婚の約束の手をあなたにと誓ったけれど 25
 でも 運命が許さないの
 わたしの手はベル博士のところで
 アルコール瓶の中よ

8

わたしの小さな^{あんよ}脚
 あなたにいつも綺麗と褒められていた^{あんよ}脚 30
 片方は確か ベッドフォード・ロウ商店街に
 もう一方は シティ金融街に

9

^{おつむ}頭がどこにいったかわからないわ
 カルプー博士だったらご存知よ
 わたしの胴体は箱詰めされて 35
 ピックフォーズ運送会社の小型トラックで運ぶんだって

10

お願いだから社長さんのところに行って
 そんな運搬やめさせて
 中身をくり抜いておいて
 外側だけなんて 真っ平ごめんよ 40

11

^{とり}雄鶏が鳴いたわ もう行かなくちゃ
 愛するウィリアム お別れね

死んでも わたしはあなたのものよ
アストリー^{じゅん}准男爵様がわたしの心臓はお持ちですけど

12

わたしのお墓で泣くのはやめて 45
わたしがそこにいるとは思わないで
わたしの体の微塵も
そこには残っていないのですから

(山中光義試訳)